

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 不動園	代表者	太田 熟	法人・事業所の特徴	'第2の我が家'を合言葉に、笑顔でゆったり過ごせる事業所を目指している。決められたスケジュールに利用者をはめ込むのではなく、利用者個々の状態や想いに応じて、通所や訪問を柔軟に組み合わせ個別支援を提供している。				
事業所名	いさなご荘	管理者	松本 章子						

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	5人	1人	1人	1人	0人	6人	0人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	研修や都度のミーティングを行う事で職員の質の向上や事業所が求められる役割を果たす。手順や結果を評価し共有する。	職員配置転換や役職者の交代があり、職員の個性やそれぞれの想いが表出した。組織として今後足並みを揃える。	ミーティングなど工夫し情報共有されているのが伝わった。課題解決の為全員で取り組めているのがわかる。	個性を強みと捉え、なおかつ組織としての足並みをそろえるため、介護職員に求められる専門性への理解と実践、その評価を毎日のミーティングで都度おこない、職員全員で課題の解決に取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者の生き甲斐や楽しみが持てるようなしつらえを生活リハビリとし利用者と行う。定期に巡回を実施し危険個所の改善を行う	2か月に一度巡回を実施し危険個所があれば都度改善した。しつらえは利用者と一緒に計画し余暇活動として取り組んだ。	落ち着ける、良い環境が出来ていると思う。地域の方が出入りしやすい工夫をしてもらえたら更に良いと思います。	ご利用者にとって落ち着ける良い環境を作るために、2か月に1度の巡回にて安全を確保する。また、しつらえをご利用者と一緒に整え安心して過ごせるようにしていく。地域の方が出入りしやすい環境とはどのようなものか、地域性とその関係を念頭に検討し実践する。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方と良い関係が構築でき、信頼される事業所となるよう必要な事は積極的に報連相を行う。行事にも職員が交代で参加する	コロナの影響が大きく、地域の行事へ参加が困難であった。地域の方にはうまく連携を行い、【頼りになる】と言ってもらえる事が増えた	どこまで地域住民の相談に乗ってもらえるのかわからないと思う。素晴らしい事業所だと思う。都度相談が出来る。認知度が上昇広報誌の発行も大切だと思います	高齢者の生活に関するを中心相談に応じ地域へ貢献できるようにする。気軽に相談していただける関係を民生児童委員の方々と構築・維持していく。広報誌の発行についてその頻度や内容などを検討する。※準備ができれば発行をしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	居住地だけでなく、事業所が所在している地域の方々と交流できる機会を設ける。	コロナの影響が大きく、利用者と共に外部で活動する事が出来なかった。民生委員や地域の要となる方との連携は行った。	コロナ禍でも出来る繋がり方を大切にしてもらいたい。	ご利用者への支援をする上で必要となる民生児童委員や地域の方の協力を得られるように関係の構築と維持に努める。地域の行事へ参加する。

E. 運営推進会議を活かした取組み	前半は会議の準備等段取りがうまくいかなかつた。また書面開催が多く、安定した会議開催が困難であつた為、役割分担と委員の方から有効な意見が頂けるよう関係構築する。	会議準備、当日の進行や報告書作成など明確に分担し、計画的に会議が行える様対応した。計画的に開催する事で、関係性も構築できつつあり積極的な意見が頂ける様になった	参加者からの意見や質問が出しやすい雰囲気で地域の声を聞いて頂けています。サロン活動は以前からの課題です。検討のまま終わっています。	取り組みに対する意見や質問をいまだきやすいように、議題を会議の前に準備し、その内容を明確にする。 コロナ禍において可能なサロン活動とはどのようなものか・何ができるのか、感染症に関する新しい情報を入手し検討のうえで実践する。
F. 事業所の防災・災害対策	事業所自体が土砂災害危険区域に指定されている。災害備蓄や安全な避難経路の整備を行う必要がある	災害備蓄品は発注完了し今年度中に完備出来る。災害種別に応じた避難訓練を実施した。経路の整備は次年度の予算に計上し対応する。	地域の有識者より意見を聞き、より適したマニュアル作成をお願いします。	立地条件や近年の気象状況、避難訓練の結果についての情報を分析し、実効性の高いマニュアルの作成を行う。